



都心部・臨海地域をつなぐ地下鉄新線の 早期実現に向けて

都心部・臨海地域地下鉄構想とは？

平成28年4月、国土交通省の交通政策審議会は「東京圏における今後の都市鉄道のあり方」についての諮問に対し答申をまとめ、「都心部・臨海地域地下鉄構想の新設及び同構想と常磐新線延伸の一体整備(臨海部～銀座～東京)は国際競争力の強化に資する鉄道ネットワークのプロジェクト」と位置づけました。

東京駅から、銀座、築地、勝どき、豊海、晴海、豊洲、東京ビッグサイト、お台場、羽田空港をつなぐ地下鉄新線を実現させようという取り組みです。



平成30年10月5日 「都心・臨海地下鉄新線推進大会」開催

中央区議会自民党議員団は10月5日「都心・臨海地下鉄新線推進大会」へ出席しました。これを機に、中央区議会議員連盟の名称を新たに「中央区議会都心・臨海地下鉄新線整備促進議員連盟」に改名いたしました。今後は一層、地域の皆さまと関係機関との連携・協働をはかり、区議会も総力を挙げて実現へ向けて活動してまいります。

地下鉄新線はなぜ必要？

本区では近年、勝どき、晴海地区で再開発による、高層マンションの建設により、居住人口が急増しています。さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会後には、選手村跡地は住宅地として予定されており、一層の人口増加が見込まれています。

本区内において、日本橋、京橋地域の鉄道は、JR、東京地下鉄等が高密度で整備されていますが、臨海部の豊海町・勝どき・晴海地区等は、都営大江戸線のみであり、鉄道不便地域になっています。都営地下鉄「勝どき」駅では、利用者が急増し、朝夕の通勤・帰宅ラッシュ時には駅構内が人であふれ返り、列車の運行にも影響が出る状態になり、現在は駅の拡張工事が行われています。

東京都の計画では、オリンピックが開催されることを契機に、一層の国際競争力の強化を図るとしており、臨海部では豊洲市場や大型クルーズ客船ふ頭等、新たな集客施設の建設が始まっています。そのため就業人口及び観光客等の交流人口の増加も予想されています。

このようなことから、急増する都心部と臨海部間の交通需要への対応が急務になっています。

地下鉄新線の整備によって期待される私たちの生活向上の効果

○鉄道路線が複数になり駅が増えることで地域にお住まいの皆さまの移動が便利になります。

○勝どき駅をはじめ、駅周辺の混雑が緩和されます。

○東京駅、銀座地域、東京ビッグサイトやお台場など臨海部へのアクセスが良くなります。

○沿線地域が発展し持続可能なまちが期待できます。

築地新時代「食の情報発信地・築地」へ！

2018年10月6日。威勢のいい仲卸の皆さんに見送られるように、築地中央卸売市場は83年の歴史に幕を下ろし、10日に完全閉場いたしました。市場移転は40年以上前から計画が度々出ていて、そのつど地元の皆さんは困惑し、また翻弄され、死活問題として反対もされてきました。2011年3月11日の移転決定を受け、準備を進め、移転3か月前という直前の時期に、2年間延期の困難をも乗り越えられ、万感胸に迫る想いでこの日を迎えられたと思います。我々中央区議会自由民主党議員団も新市場の発展を期待し、関係の皆さまの更なる御繁栄をお祈りしております。

一方、築地はその後どうなっているのでしょうか？

実は、豊洲移転後も食のプロに支持され、一般の皆さんにも親しまれる「食のまち、築地」に磨きがかかっているのです。

築地四丁目交差点周辺から旧市場方面と勝どき橋方面に広がる「築地場外市場」は、今もたくさんの人々で溢れ、変わらぬ賑わ

いぶりを見せています。

特に、築地の活気を継承するために設置された「築地魚河岸」は、1階に60店舗からなる目利きのプロの市場機能を有し、早朝5時から9時まではプロの買出人向け、それ以後は一般客に解放されるという施設で、そこで売られる水産物や青果は市場と同様の品質で販売しております。

また上階には、午前7時から営業される魚河岸食堂やキッチンスタジオも併設され、築地の魅力を凝縮した施設になっているだけでなく、「築地」や「食」の情報を世界に発信する拠点としても活用されています。

あらためて「築地場外市場」の名称を継承することとなり、食に関する全てについて、プロに応える460店舗として、これまで以上の活気を漲らせるだけでなく、一般客の変化やニーズに合わせ新たな築地場外市場として動き出しました。

今までは市場関係者向けに早朝営業だったお店も営業時間が変わったり、一般客がより入りやすい工夫をされたりと、今まで

以上の賑わいを見せております。

徳川幕府の命により、佃の漁師が江戸湾で獲った魚をお城に献上し、その残りを日本橋で売ったのが魚河岸のはじまりとされます。

中央区は、それから300年以上に亘り、食文化の中心地であり続けました。

卸売市場の移転を経た現在も、食文化の中心地として賑わう築地の活気と「築地ブランド」の新しい時代を、われわれ中央区議会自由民主党議員団は応援してまいります。



日本橋上空の首都高地下化へ！実現へ向けて始動！

1964年開催の東京オリンピックに合わせて緊急的に整備された首都高速道路は、我が国の経済活動を支える重要な役割を果たしてきました。

しかしながら、建設から時間が経ち老朽化が進む一方、整備に急を要したために中央区では川の上空に首都高が設置されたことにより貴重な水辺空間の消失や、周辺景観に与える影響、また、防災面や公衆衛生の面からも多く議論されております。

その中で、日本橋上空に空を取り戻そうと地元が中心となり、「日本橋上空に架かる首都高を外そう」との運動を始め、全国からの集まった賛同者の署名は42万にも登り、中央区、そして、中央区議会自由民主党議員団は、国・都・首都高速道路(株)に働きかけ、日本橋周辺のまちづくりと連携し首都高の取り外しに取り組んでまいりました。

こうした活動が実り、平成29年7月には国土交通大臣、東京都知事により「日本橋周辺のまちづくりと連携し、首都高の地下化に向けて取り組む」旨、発表されました。

この発表を受けて、国・都・中央区・首都高速株式会社が一堂に会する「首都高日本橋地下化検討会」が3回に亘り開かれました。

そこでは、日本橋周辺における首都高の地下化における、送電・配電等の電力施設、大経口の下水道の、通信施設の埋設や日本橋川、地下鉄、大規模再開発等の課題が提示され、それらの課題をクリアするための周辺再開発事業との連携、コスト削減、構造・ルート、交通機能などが検討され、地下化は神田橋JCTから江戸橋JCTまでの1.8km区間が示され、3200億円の予算とその按分も示されました。

この事業は単独事業ではなく、工事には周辺再開発が大きくかわるため、それぞれの工事や建設の進捗が影響するので事業の完成は2030年から2040年と見込まれています。

われわれ中央区議会自由民主党議員団は、一刻も早く、日本橋に青空を取り戻し、また、周辺の昭和通り上空の首都高撤去に向けても活動してまいります。

